

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者様お一人お一人の生活を念頭に考え、地域とのかかわりを意義に入れた理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、事務所、厨房に掲示しており介護日誌にもはさんでおり常に意識するようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や季節ごとのイベント、家族会に参加していただいたりして理解を深めていただけるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際、積極的に挨拶をしたり、近隣のスーパーへ一緒に買い物に行ったりして馴染みの関係が作れるように努めている。	○	天候がよい日はなるべく外に出る機会を増やして地域の方たちとのコミュニケーションを深めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者様の意見を聞き入れてなるべく老人会や地域の行事に参加するように努めている。	○	参加可能な行事等あれば今後も積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域交流会と称した祭りにご近所様を招待したり、ホーム見学を希望される方にはいつでも見学できるように対応している。又、散歩の際にホームの説明を希望される方もおられ説明したこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義について全職員が理解するように努め、評価内容、評価結果は全職員が目を通し把握、改善点を意識するように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や行事、レクリエーション、職員研修等の報告をして御家族から質問や要望をお聴きしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者や他の色々な相談をして意見を聴いている。又、地域のグループホーム協議会に参加してサービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者のカンファレンスを通じて成年後見制度を学んでいる。又、福祉担当者と成年後見制度の活用について話し合っている。		現在、成年後見制度が必要と思われる利用者様がおられ地域包括支援センター職員と相談中。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設けており、その中で自分たちが行っている行為や言葉が虐待にならないか話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は御家族、利用者様がわかりやすいように納得されるまで説明している。又、退去の際も改めて必要事項を説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見、苦情箱を設置しておりいつでも投函できるようにしている。又、直接聞きとったり話やすい雰囲気を作っており、苦情や不満の話があった際はどうすれば解決できるか職員で話し合い運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回利用者の状態や行事での様子等を手紙にて報告している。又、状態に変化があったり何かを購入するときは必ず御家族様に報告している。金銭管理については出納帳を月に1回送付している方もいれば、面会時に確認していただいたりし定期的に確認していただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、同様に玄関に設置された意見箱にいつでも投函できるようにしている。面会の際や家族会時に御家族から要望や希望を聴くようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時に意見や提案を聞いている。不満や言いにくいことがあれば個別で対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態や家族からの要望があれば話し合いをしたり勤務の調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がないように努めている。レクリエーションや勤務で職員が他のユニットに行き来しており職員が急な異動や離職をしてもいつでも各ユニットに異動できるような体制をつくっている。どうしても仕方ない場合は家族や利用者に説明をして対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な外部研修を受ける機会を設け職員から希望があれば研修日を与えたり、研修費を出している。資格取得も勧めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にあるグループホーム協議会や研修に参加することにより同業者との交流を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気軽に相談できる環境作りに取り組んでおり、定期的に食事会、親睦会を行っている。また、必要なときに有給休暇を取ることができ心も身体もリフレッシュできるように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場で起きていること、課題、成果をしっかりと把握するように努めている。職員の健康状態も確認しており。一人一人の労働条件に合った勤務体制を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談の際に利用者様、御家族から希望や不安なこと生活歴等を聴き入所前に理解を深める工夫をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初の相談から御家族がどのようなことを求めているか話をよく聞き、当ホームの様子、どのような対応ができるかをお話している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケースワーカー、ケアマネジャーからの相談がほとんどでグループホームを選択してからのケースが多い。他のサービスで改善できるようであれば提案し選択していただくよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度か見学に来ていただいたり、日中、他の入居者様と一緒に過ごしていただいたり体験入居ができ、少しでも安心して馴染めるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることは何でも入居者様にやっていただき教えていただく姿勢をとっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の件でわからないことがあれば面会時や電話でお聴きしてどういった対応をしていくかは家族とともに話し合いながら関係を築いていっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	何か状態に変化があればこまめに連絡している。また、状態に変化がなくても月に1度はお手紙にて1ヶ月の状態を報告している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望時は自由に電話していただき友人や家族と連絡をとっている。馴染みの人に会いたかったり、馴染みの場所に行きたいときは家族に相談している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握して、気が合わない方等は職員が間に入り対応している。また孤立している入居者様には積極的に話しかけたりフロアに出てくるように伝えたり気分を害さない程度促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去した後も家族会の参加を促したり、時折電話もかかってきたりしておりそれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各居室の物品の配置や1日の過ごし方を把握して希望に添えるように対応している。家具等も馴染みのある物を極力使用できるように対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人性格や生活歴を把握して今までの生活リズムをできるだけ壊さないように対応している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が交代するたびに申し送りを行う。介護日誌や経過記録に状態を記録して出勤した際は必ず目を通すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は必ず御家族様と入居者様の意見を聞き他の関係機関からも意見を取り入れて本人に負担のかからないプラン作成に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行っており変化があればその都度プラン変更している。その際、家族、本人、必要な関係者より意見をもらい作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアチェックをつけており何か特別な変わりがあった際は備考欄へ記録を残して職員同士、情報を共有し介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や書類の代行等、希望や要望があれば応じれるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員に参加していただいたり消防訓練の際には定期的に消防署職員の参加をお願いしている。また、イベントの際はボランティアをお願いしていることもある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用の希望があった場合は家族や医師と相談してケアマネジャーやサービス事業者と話し合い連携を取り支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要のあると思われる利用者に対して成年後見制度の必要性について相談している。	○	今後は地域包括支援センターと連携を取り、それぞれの機能を活かした協働を行っていききたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に毎週、往診に来ていただいている。また、それ以外でも必要であれば随時、状態を報告したり往診に来ていただいている。家族から希望があったり主治医から指示があれば他の病院受診を家族に代わり代行、送迎している。		入居者様を24時間体制で診察や相談を受けてもらえる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医だけではなく入居者が必要な医療機関を必要な時に受診を行っている。毎週、主治医の往診があつているので相談や診断はその際をお願いしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間体制でかかりつけ医師、看護師と連絡が取れるようになっており、緊急時は速やかに対応できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際は病院への情報提供を行っている。定期的に連絡して状態を聞き、治療が終了したら退院できる体制を整えている。		常に病院からの情報を家族に伝えており不安や相談にも対応している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアについての説明をし家族の希望を文書にて提出していただいている。終末期のマニュアルも作成しており、家族、医師と相談し合いながらマニュアルに沿って対応している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の状態を見極め主治医、家族と相談、連携を取り利用者の対応を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際は本人、家族の希望を十分に把握して、関係機関への情報交換を行いスムーズに住み替えることができるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様が不快に感じる言動や否定的や命令形にならないように対応している。個人情報是一人ひとり別のファイルに保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何を行うにも本人の意志を尊重して行っている。又、できることは時間をかけてでも自分で行ってもらいたいよう介助せずに見守っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事やイベントに参加するかどうかは利用者の判断に任せており本人の思うように過ごしてもらっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を活用しているが、家族や利用者から希望があれば対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存能力を生かして食事の調理や準備、後片付けを可能な限り一緒に行っている。ただ、入居者のその日の体調もあるので毎日とは限らない。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は入居者の希望があったものを取り入れている。たばこは現在はいないが吸われる方がいれば所定の場所で吸っていただく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表があり一人ひとりの排泄パターンを把握しており、食前、食後等に声かけ、誘導している。又、夜間はオムツや紙パンツを使用している方でも日中は布パンツをはくように促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は特に決めていない。入りたいときに入っていただき夜間帯でも希望があれば対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間が良く眠れるように個人個人に日中の活動性を高めるように働きかけている。又、夜間眠られない方には無理に入眠を促すのではなく話をしたりして対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに役割を持ってもらい入居者に好きなことをしてもらうように対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人から訴えがあれば個人で管理してもらっている。又、買い物の際は自分で支払いができるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩等を行っている方もいるが、個別で希望を聞き職員が付き添いの元、散歩に出かけられるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの花を見に行ったり、ドライブや初詣にも行っている。家族とともに近くの公園まで行き一緒に食事を摂ったこともある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるように対応している。手紙を出す際は必要なことの支援をしている。お正月には毎年利用者が作成した年賀状を家族に出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	フロアや廊下に入居者が作成した作品を掲示したりして明るい雰囲気づくりに取り組んでいる。面会時にはフロアで過ごすか居室で過ごすか、入居者、家族に尋ねて決めてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないように取り組んでいる。自分たちが行っていることが身体拘束に当てはまらないのか、自分だったら不快に思わないか等、話し合い見直しを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	テラスへ行く窓等、以外は鍵をかけていない。どうしても鍵をかける際は文書に残している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	散歩に行かれる方は時間や行く場所を必ず申し出るように話している。居室におられる方はこまめに訪室して声かけしている。徘徊者もいるので常に入居者の所在の確認は行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	馴染みのある物を使用していることもあるので場所を変えたりして対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアル、行方不明時の対応、出火の際の手順を作成しており、マニュアルを理解しておりそれに沿って行動している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に応急手当や初期の対応訓練を行うようにしている。また入職時には訓練を行うようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回(1月、7月)夜間想定消防訓練を入居者を交えて行っている。その際、避難訓練や通報訓練、災害時の避難場所等確認を行っている。	○	去年までは年に1回消防署から講評しに来ていただいていたが今年はできなかったもので、できるだけお願いをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者に特別な変化があった際はすぐに家族に報告して今後起こりうるリスクを想定して連絡している。家族とともに解決策や方向性を考え対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日ごろから利用者の表情や行動を注意して観察している。いつもと違う状態の時は速やかに管理者、看護師、医師に報告し早期発見、早期の対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が内服の目的や副作用の理解に努めている。内服の説明書を個人のカルテにとじておき確認できるようにしている。内服変更時は、看護師より申し送りを受け全職員に伝達している。	○	内服によっては食事の組み合わせが悪く色々な症状が出ることがあるので、出来る限りのことを把握していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	内服や食事内容からの影響を考え腹部マッサージや運動を促している。又、一人一人の排便リズムや排便がない日数を把握して便秘の方には日ごろから水分や海藻類等を多く摂取していただいている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後にうがい歯磨きを行っている。義歯を使用している方は週に1回、義歯洗浄薬にて洗浄している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事が提供できるように介護士や看護師から意見を聞いて献立立案している。又、利用者の状態に応じて食事量や食事の状態を考え提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがありそれに沿って行動している。感染者が出た際は医師からの指示を仰ぎ速やかに行動している。職員は出勤時に手洗いうがいを行い、入居者は昼食前にうがい、毎食前に手指消毒をして外出して帰宅後も手洗いうがいを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は毎食後、熱湯消毒して調理器具は毎日消毒している。食材は毎日業者から配達してもらい適切な保管管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な雰囲気を出せるように季節の花を飾ったり利用者が作成した作品を掲示したりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光性のブラインドを使用しており光の調整を行っているが利用者に不快がない程度日中は極力、外の光を取り入れて明るい雰囲気づくりに努め、季節の物や花を飾り季節感を味わえるように取り組んでいる。又、テレビの音や職員同士の会話にも気をつけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下に椅子やソファを設置してテラスには椅子とテーブルを設置していつでも自由に過ごせるように居場所の工夫を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居相談の際は今まで入居者様が使い慣れたなじみある物を持ってきていただくように話している。突然の環境の変化による不安が少しでも少なくなるように注意している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前、午後と換気に努めている。必要な際は随時行っている。利用者や家族、来訪者が不快な思いをしないように注意している。また、利用者の状態に応じて温度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用しやすいように、利用者に合ったものを使っている。(手すりや入浴補助道具、物干しの高さ等)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋の入り口に表札をつけたり場所間違いが多い入居者のために大きい字でわかるように貼り付けているところもある。時計やカレンダーを見やすいところにつけ、いつでも確認して自ら行動できるように支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候が良い日はなるべくテラスで食事やおやつを楽しんだりできるようにしている。又、園芸スペースを設けており職員とともに作業をすることもある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

限られた小さな空間だが畑で野菜や花を作っている。できた野菜を提供して時には利用者様と共に作業することもある。また、おやつを利用者様と一緒に作ることもあり、自分たちで作ることや、作ったものをいただく喜びや楽しみを共に共感している。